

ひだまり

発行所
聖愛園

〒519-2211
三重県多気郡
多気町丹生4701

TEL 0598-49-3115
fax0598-49-3783

新年のごあいさつ

新年あけましておめでとうございます。本年も何卒ご支援賜りますようお願い申し上げます。

障がいをもたれた方々の地域移行が叫ばれて久しい昨今、社会福祉施設を取り巻く状況は、これまでの施設収容中心主義的な時代から、地域福祉関連サービス等に施設機能領域を拡大し、地域福祉や在宅福祉を重視する方向に変化しており、また、利用者様の障がいの重度化や重複化、利用者様自身の高齢化が進む中で、福祉ニーズは多様化・高度化し、社会福祉施設には利用者様の障がいの特性に応じた多種多様な福祉サービスの提供が求められています。

私どもの身近な福祉課題に目を向けてみますと、今後十年間に、松阪多気管内の特別支援学校や公立の小・中学校の特別支援学級に通う七百名以上の子供たちが成人を迎える反面、受け皿となる社会福祉施設は不足しているのが現状であり、早急な地域福祉資源の充実が求められているところであります。

私ども『聖和福祉会』は、近々、松

阪市に通所支援事業所を開設し、利用者様が楽しみを感じるメニュー、運動機能の低下や肥満を予防するメニュー、ゆとりのある活動メニュー、集団で楽しむことが出来るメニューなど、利用者様お一人おひとりの個性や障がいの特性に応じたサービス提供の探求に努め、相談支援事業なども含め、地域の障がいをもたれた方々やご家族の様々な福祉ニーズの実現に取り組みさせていただきます。

当法人は本年も、利用者様の安全安心は元より、一人の人間として、人格と個性を尊重し、常に豊かな心をもって共生社会の実現に寄与することを心に留め展開していきたいと考えておりますので、ご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

本年も皆々様のご多幸を心よりお祈りいたします。



社会福祉法人 聖和福祉会

理事長 山岡隆

新年あけましておめでとうございます。本年も何卒よろしくお祈り申し上げます。

当法人は、平成二十五年度中の松阪市内への通所支援施設の開設を目指し、精神的に活動している最中であり、昨年、県内の多くの通所関係施設に施設見学をお願いし、お忙しい中でもかかわらず、快くお引き受け下さいました事に遅ればせながら厚く御礼申し上げます。それぞれに特色のある施設運営をされており、大変参考になり勉強させていただく事が出来ました。

先輩施設様からのご助言などを参考に、次第と『こんな施設を作りたい。』こんな福祉サービスを提供したい。』と未来像が浮かんでくる場所とあり、私たちには通所施設のノウハウもなく、未熟者でございますので、遥か彼方を目指すことなく、まずは真面目に一生懸命、目の前の課題に取り組み、一步一步進んでいきたいと考えております。

ハード面、ソフト面共により良い施設を作っていくために、本年も多くの先輩施設様を見学し勉強させていただきました。関係施設様には再度ご無理をお願いすることもあろうかと思いますが、何卒ご協力賜りますようお願い申し上げます。

これからもご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお祈り申し上げます。

事務主任 戸野歩

サービス管理責任者として

サービス管理責任者に就任させて頂き早くも二年が経とうとしています。

初年の個別支援計画は「中身のある計画」を意識していたものの計画作成のプロセスに追われてしまい、自分の中で課題の多い一年となってしまいました。

二年目に入り、個別支援計画をいかに「絵に描いた餅」にする事無く利用者支援に結び付ける事ができるかを念頭に置き業務をしています。日々壁に当たる毎日ですが、少しずつ計画と支援の歯車がかみ合ってきている事を実感しています。

「利用者支援」と一口で言ってもサービス管理責任者一人では出来ません。生活の支援をする生活支援員、栄養面から支える栄養士、医療面では看護師、諸手続等では事務と、施設全体のチームプレイにより、良い「利用者支援」が出来ると思っています。

今後もチーム一丸となり、より良いサービスが提供出来るように頑張つてまいりますので、よろしくお祈りいたします。

サービス管理責任者

弓木昭人





第13回 聖愛園クリスマス会



十二月九日、第十三回聖愛園クリスマス会が開催されました。当日は雪がちらつきとても寒い日となりましたが、園には多くの保護者の方々が駆けつけて下さいました。理事長の開会の挨拶から始まり、利用者さん全員参加のクリスマスソング、「くすの木学園」の皆さんによる唱歌、サンタさんから利用者の皆さんへのプレゼント、職員の仮装パフォーマンスなど、盛りだくさんの内容でした。

会場となったデイルームの装飾は、日頃の創作活動で作成された物が数多く利用され、またクリスマスプレゼントは事前に職員が利用者の皆さんから欲しい物を伺い用意しました。特に好評だったのが、男性職員の体を張った出し物でした。白鳥に仮装した職員の「あたりまえ体操」や、AKB48の女装をした職員のパフォーマンスには、来園された保護者様や利用者の皆さんも大盛り上がりでした。

来年もこのような楽しいクリスマス会にしたいと思います。ご協力いただいたボランティアの皆さん、ありがとうございます。職員の皆さんもお疲れ様でした。

生活支援員 クリスマス会担当 松本晋弥

平成二十四年十月十日から十一日の二日間、熊野かんぼの宿へバスの旅に出掛けました。当日はお天気にも恵まれ、絶好の旅行日和でした。



二日目はトロツコに乗りました。大きな音にびっくりしながらも楽しまれていたと思います。



夕飯の前に皆で大浴場でさっぱり！

湯上りの浴衣もとても似合っていました。そしてお待ちかねの大宴会が始まりました。ごちそうに目を輝かせ、カラオケでは得意の曲を披露し大いに盛り上がりました。

朝食のバイキングでは様々なメニューが並ぶ中『あれも！これも食べた！』と自分の好きな物を選び十分に堪能しました。



生活支援員 高山かおる

一泊旅行は初の試みでしたが大成功だったと思います。皆さんも初体験の連続でいつもとは一味違う楽しみがあったと思います。『楽しかった！また行きたい！』との感想も聞きました。今回の経験を生かし、次回の一泊旅行も満足してもらえらるものになりたいです。



虐待防止委員会まで

平成二十四年十月一日より「障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律」が施行されました。法律では、障がい者の尊厳を守り、自立や社会参加の妨げとならないよう、虐待を禁止・予防と早期発見の取り組み、養護する人に対する支援が定められています。

障がいのある方が置かれている環境は様々であり、虐待はどこでも起きる可能性があります。聖愛園においても、施設内での虐待を未然に防止する為の

体制のひとつとして「虐待防止委員会」が設置されました。定期的に職員一人ひとりが日頃の支援行為を振り返り、「チェックリスト」により小さな気づきから課題を見つけ、改善に繋げていると取り組んでいます。

私達職員は利用者様の生活を守る専門職であり「不適切な関わりは虐待である」という認識を持ち、安心して過ごしてもらえる施設であるように日々の支援に努めたいと思います。

生活支援員
藤村里香

流しそめん

九月九日、保護者の方々と一緒に流しそめんを実施しました。

そめんは、半分は割った真竹を流れます。いつもは物静かな利用者さんも今日は素早い動きでそうめんをすくい、意外な一面を見せてくれました。最後に座りお椀ですくう利用者さん、遠慮がちに箸を出す保護者の方、職員もお腹いっぱい頂きました。

ウクレレのボランティアさんとの掛け合いあり、踊りのボランティアさんには一緒に踊ったりと、大いに盛り上がりました。

おやつは聖愛園名物のかき氷です。残暑厳しいこの時期には格別のおいしさです！そして、もうひとつの楽しみであるカラオケ大会。保護者の方々も利用者さんも自慢の喉を披露して下さいました。次々に唄いたいと手を挙げる利用者さん達でしたが、時間がなくなってしまう、名残惜しそめんでした。

支援部主任
島田真美



医務室より

ノロウイルス対策

今年、「ノロウイルス」が主な原因とみられる感染性胃腸炎が全国各地で猛威をふるっています。

今のところノロウイルスの特効薬はなく、感染すると、下痢・嘔吐・腹痛・発熱などを起こします。また症状が悪化した場合は、脱水や肺炎を起こして死に至る恐れ感染症です。

集団生活の場においては、ノロウイルス感染が起こりやすく、広まりやすい環境です。そのため、聖愛園では、感染を防ぐための予防法や万一感染してしまった際の対処法を研修し感染予防に努めています。

まずは「手洗い」を徹底しよう！



利用者様は、各食事前・外出後には、流水と石鹸で手洗いを行ないます（職員が手洗いの不十分な部分をお手伝いしています）。手洗いの後、使い捨てのペーパータオルで拭き取り、その後、手指消毒を行なっています。

今後も、利用者様が安心して生活して頂くための健康管理に加え、職員への保健指導を行ない、感染対策を実施したいと思います。

看護師
木下明美

厨房より

炊き出し訓練

東日本大震災からもうすぐ二年が経とうとしています。多くの方が被害を受けられ、病院や学校、福祉施設も食事の提供が困難となりました。

聖愛園では、昨年六月から給食会社(株)トモに厨房調理を委託し、新たに『災害時対応マニュアル』を作成しました。このマニュアルに基づき、現在備蓄している非常食を中心に炊き出し訓練を年四回実施しています。

ライフラインが寸断され、水道やガスが使えなくなった状況を想定し、かまどに薪で火を起こすところから材料の仕込みまでを支援員と栄養士協働で作業します。中には、火を起こした事がない・家で包丁を持たないといった職員もいましたが、この日ばかりは真剣に取り組んでいます。日常の業務と並行して行うので、支援員二〜三名と栄養士一名で全員分を調理し、その日の昼食に提供、試食しています。毎回の訓練で得た『気付き』を最大限に生かし、これからも防災強化に努めています。



栄養士
羽根めぐみ

いろんなところに行きました！！



日帰り旅行



聖愛園では昨年、八つの班にわかれて日帰り旅行に出かけました。

北は名古屋港水族館から南は頭之宮四方神社まで、日常の外出活動では味わえない距離と時間、そして内容を利用者の方たちの体力に応じてそれぞれ計画しました。

往復の車中では窓から見える秋の景色を楽しみ、目的地では時間の許す限り自然に親しみ、新鮮な空気をお腹いっぱい吸ってリフレッシュしていただけたと思います。

普段には見られない笑顔があり、会話があり、行動力もありました。帰りには、次の計画を聞いて春の旅行にも行きたいと要望されていました。何よりも利用者の方たちの喜ばれる顔、楽しい会話が、私たちの癒しとなる事を痛感した旅行となりました。

利用者の方たちの健康を祈り、これからも楽しい毎日を送っていただけるよう精一杯努めたいと思います。

生活支援員
安藤陽子

松阪市展 連続入選



創作活動の時間に描いた作品のうち、二名の利用者様の作品が第五十三回松阪市美術展覧会絵画部門に入選しました。しかも一人のかたは、六名の審査員の全員一致で昨年に続いての入選となりました！

作品は十月六日から十四日までの間、松阪市文化財センターのギャラリーで展示され、松阪市や多気郡の多くの美術愛好家に見ていただくことができました。

今は、三月に鈴鹿市で開催される三重県障がい者芸術文化祭に向けて四名の利用者様が作品づくりをしています。



『街』
K・Yさん

今度は三重県中の皆様に作品を見ていただけることを楽しみにしています。



『行動』
A・Tさん

生活支援員
創作活動担当
田中修

御厚情深く御礼申し上げます

自平成二十四年七月十六日
至平成二十五年一月十五日

ご芳志ご芳名 (敬称省略)

保護者会・武田スミヨ・水谷英男
西村郁三・中川和子・本田敏
(株)マルエイ

物品寄付ご芳名 (敬称省略)

保護者会・中野久子・武田スミヨ
山野弘子・濱口修一・本田師子
加藤八洲和・小磯譲治・村口喜代時
神廣かよ・西村郁三・西秋治
岩城央生・水谷英男・本田敏
森本明・中川和子・中野智恵子
馬野すゑの・山内常美
(株)西組・(株)マルエイ・(株)光洋・小山(株)
三光運輸・(株)内金・凍生園
(株)トモ・庄司保険事務所・丹生大師
アスカ総合設計・でんきや
清和ワークキャンプ
近田正子・田上早苗・中川薫
戸野和雄
他にも匿名で品物を頂戴しております。

機関紙ひだまり第三十七号
を発行させていただきました。
ご一読いただければ幸いです。
宜しければブログ『聖愛園☆活動日記』もご覧下さい。

<http://seiaien.exblog.jp/>

編集 事務員 久保加奈子



事務室より